

新座写真歳時記—小満の頃

五月来ぬ樹々の輪郭濃くなりて（米沢 吾亦紅）

暦便覧によると「万物盈満(エイマン)すれば草木枝葉繁る」だから小満なのだそうだ。「盈」を調べると充(ミツル)という事らしい。全てが充足した状態になり、ノビノビとして活発



に活動する時期だとある。では何故《小》なのかが解らない。改めて調べた。「盈満の咎め」という言の葉があり、「物事が極点に達すれば却って災いを招く」の意で、満ちれば欠けるという道理をいうとあった。だからあえて《小》をつけたと理解した。二十四節気の中で小満の意味が解らず、あれこれをひ

っくり返し、やっと納得できたので記述してしまった。

何時も取材に伺う農家の奥さんがブログを開いている。最近のブログに「ジャガイモの花」のいろいろが載っていて、これが見たくて出かけた。大荒れの日が通り過ぎ、カラッと気持ち良い五月晴れの道を自転車で飛ばす。確かにやる気の出る季節である。

ファームにはおやじさんが一人。収穫の済んだ大根畑通路の雑草整理に汗を流していた。

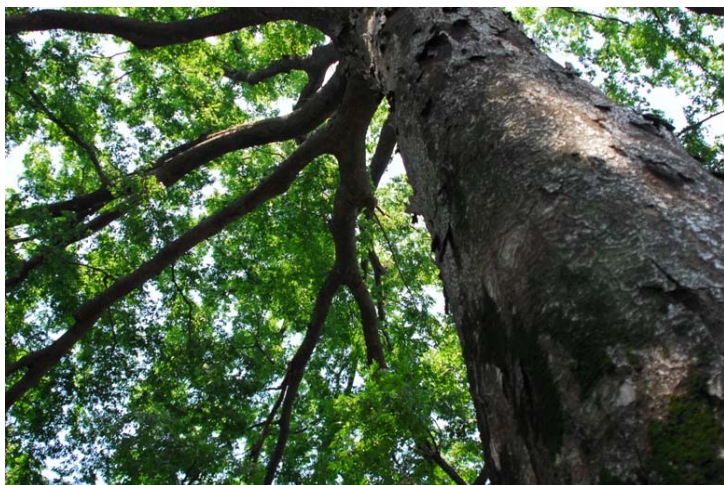


お邪魔をして何時ものつまらない質問。ジャガイモの花は、実が生るわけじゃないのに何故咲くのか?と聞くと「??」と一瞬無言。怒られるかと思った。「ジャガイモだけじゃなく、人参も牛蒡も大根だって咲くんだよ。花が」「そういえばおやじは人参の種を採っていたな～」と昔を振り返る。いろいろ教をうけて、又雑学知識の分量が上がった。



現在このファームでは 5 種類のジャガイモを栽培している。男爵、メークイン、北あかり他で用途・要望別に出荷をするという。来シーズンは 7 種を手掛けようかと思案中らしい。ひとしきり可愛らしいジャガイモの花を撮る。

場所を移動しながら現状を視察。小満という季節らしく、各畑にはそれぞれの作物が植



えられ活況を呈している。大和薯、里芋そしてサツマイモとイモ類が中心と見た。サツマイモの畝が深いのに吃驚。つい一月前のファームは地面むき出しだったが、大半が青々とした緑に覆われている。目を上げると母屋を囲む木々は、いっぱい

の葉を茂らせている。強い日差しを適当にさえぎり、吹き抜ける風が実に気持ちよい。木枯らしの中で見上げた大樫には、みっしりと葉をつけた太い枝がゆさゆさと風に揺れている。寝転んで写真を撮ったが、レンズサイズが合わず、雄大な雰

囲気が掴み取れず他日に機会を譲る。
かえりみるとこの取材に入ったのは今年の八月。全てが収穫を待つという時期であった。それからの折々を垣間見てきたが、やはりこの時期の煩雑さとは大きな違いがあった。この頃にはこれをしてこの場所にはあれを植えてという話は聞いていたが、実際に見ると緻密に計算された工程表を見るようである。だがそのような表があるようには見えない。経験によって繰り返される日常作業なのである。



帰り際にトウモロコシ畑を見る。順調のようだ。後一月で第一陣の取り入れと聞いている。これを逃さず購入するためのチェックである。去年は不出来と言っていた柿ノ木にも花がたくさんついてた。かぼちやもきゅうりも綺麗な黄色の花でいっぱい。ファームは数々の花で溢れていた。小満とはよくぞ付けたと納得する風景であった。

柿若葉重なりもして透くみどり（富安 風生）